

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	19	実施計画番号	15	
事務事業名	環境教育への取組		事業開始年度	平成7年
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業		
背景や経緯等	幼児期からの環境保全に対する意識の向上を図るため、「ごみひろい」「ごみのリサイクル」などのテーマで幼児向けリサイクル教室を開催している。			
事務事業の目的	環境教育に努め、環境保全の普及啓発を図る。			
実施状況	幼児向けリサイクル教室の開催			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	24	19	
	人件費(千円)	864	684	0
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	3	3	2
	活動日数(日)	24	19	
日日雇用職員	人件費(千円)	640	507	0

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	0	0	0
うち一般財源			
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	幼児向けリサイクル教室開催回数				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	開催施設数	箇所	24	19	35	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
成果指標	成果指標名①	幼児向けリサイクル教室開催回数				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	開催施設数(目標値は、開催案内を通知した施設数)	箇所	目標値	31	31	35
			実績値	24	19	
			達成度(%)	77%	61%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	19
計画No	15

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">循環型社会の形成については、幼児期からリサイクルに関する意識向上を図っていくことが重要であることから、事業としては妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	循環型社会の形成については、幼児期からリサイクルに関する意識向上を図っていくことが重要であることから、事業としては妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
循環型社会の形成については、幼児期からリサイクルに関する意識向上を図っていくことが重要であることから、事業としては妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平成24年度に対し、平成25年度の開催実績は減少しているが、これは申込数が減少していることによるものであることから、事業の目的を改めて説明し、より多くの保育園・幼稚園に受講してもらおう努める。 また、リサイクル教室の内容については、アンケート等の実施も検討し、幼児が楽しく遊んで学べるよう充実させる必要がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	平成24年度に対し、平成25年度の開催実績は減少しているが、これは申込数が減少していることによるものであることから、事業の目的を改めて説明し、より多くの保育園・幼稚園に受講してもらおう努める。 また、リサイクル教室の内容については、アンケート等の実施も検討し、幼児が楽しく遊んで学べるよう充実させる必要がある。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	平成24年度に対し、平成25年度の開催実績は減少しているが、これは申込数が減少していることによるものであることから、事業の目的を改めて説明し、より多くの保育園・幼稚園に受講してもらおう努める。 また、リサイクル教室の内容については、アンケート等の実施も検討し、幼児が楽しく遊んで学べるよう充実させる必要がある。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">リサイクルに対する意識向上のための幼児教室開催であり、適正である。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	リサイクルに対する意識向上のための幼児教室開催であり、適正である。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	リサイクルに対する意識向上のための幼児教室開催であり、適正である。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">幼児を対象としたリサイクル教室であることから適正である。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	幼児を対象としたリサイクル教室であることから適正である。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
幼児を対象としたリサイクル教室であることから適正である。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					18 / 20	改善の余地	2 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由
幼児期からの環境教育は極めて重要であり、リサイクル教室の需要を一層掘り起こしていく。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
幼児向けリサイクル教室の重要性を改めて説明し、より多くの保育所・幼稚園に受講してもらおう。また、幼児が楽しく学べるように内容の充実を図る。